

夜明けまえ

知られざる日本写真開拓史 [北海道・東北編]

Dawn in Japanese Photography: Hokkaido and Tohoku

会期 2013年3月5日(火)～5月6日(月・振休)
(前期)3月5日(火)～4月7日(日)
(後期)4月9日(火)～5月6日(月・振休)
会場 東京都写真美術館3階展示室

主催 東京都 東京都写真美術館／読売新聞東京本社／
美術館連絡協議会
協力 日本大学藝術学部
協賛 ライオン／清水建設／大日本印刷／
損保ジャパン／日本テレビ放送網



田本研造カ 《箱館市中取締 裁判局頭取 土方歳三》
明治二年頃撮影 後年のプリント ゼラチン・シルバー・プリント 函館市立中央図書館蔵(部分)(後期展示
※前期はレプリカ展示)

展覧会概要

東京都写真美術館では、日本全国の美術館、博物館、資料館等の公共機関が所蔵する幕末～明治期の写真・資料を調査し、体系化する初めての試み「知られざる日本写真開拓史」の第四期として「北海道・東北編」を開催します。

幕末の開国と時を同じくして、日本にもたらされた写真。

江戸時代末期の日本において「写真」は、西洋技術の象徴でした。横浜や長崎などが開港し、訪日する写真師との関わりから、江戸の鵜飼玉川(うかいぎょくせん)や開港地の上野彦馬・下岡蓮杖(しもおかれんじょう)など、日本人の写真師が各地に現れます。そして、西洋的近代化へ向かう社会情勢とともに、その技術はさらに次の世代へと伝承されていきました。

本展では、「関東編」(2007年)、「中部・近畿・中国地方編」(2009年)、「四国・九州・沖縄編」(2011年)と同様に、北海道・東北の約2,400ヶ所の施設へアンケート調査を行い、それに基づき学芸員の地道な現地調査で明らかになった、現存する貴重なオリジナルの写真作品・資料を展覧します。写されたイメージだけでなく、台紙やデザイン、写真師に関わる錦絵など、北海道・東北の初期写真と時代がダイナミックに感じられる作品・資料をご鑑賞ください。

なお、本シリーズは引き続き、写真の伝搬と普及についての調査・研究、本展を含むこれまでの調査の集大成として2016年に「総集編」を開催する予定です。

展示構成

北海道・東北の現地調査で所蔵が明らかになった東京初展示作品のほか、東京都写真美術館、協力機関の日本大学藝術学部、JCII/石黒敬章氏を含め、39ヶ所の所蔵先から502点を出品します。

（出品リストは別紙参照。期間中に展示替えあり）作品は下記の3部構成で紹介します。

- 1部〈であい〉 写真流入期の作品・資料
- 2部〈まなび〉 第一世代写真師の作品・資料
- 3部〈ひろがり〉 第二世代以降の作品・資料

各道県の現地調査と出品作品

※展示では、道県別ではなく写真史の流れに沿ってご紹介します

北海道

北海道では15館の現地調査を行った。全体に地域に密着した資料が多く、特に明治2年から行われた北海道開拓やその後の開墾や建設に関する記録写真を、函館市中央図書館や北海道立図書館、北海道立文書館などが多く所蔵している。ここにあげた2点は、開拓使設置以前に制作された貴重な作例である。

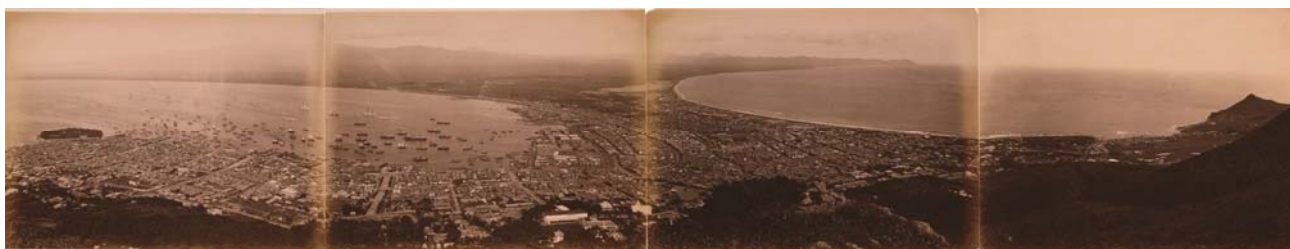
《徳川幕府脱走之士》は、政府成立後も佐幕派に協力したフランス軍事顧問団と蝦夷共和国副総裁・松平太郎らを函館で撮したもの。前列中央左のジュール・ブリュネは、映画「ラストサムライ」主人公のモデルとなった人物である。



左上) 制作者不詳 《陣羽織姿の松前崇廣》 慶応2年(1862)年以前 アンプロタイプ 松前町郷土資料館蔵(通期展示)

右上) 田本研造 《徳川幕府脱走兵之士》 明治2(1869)年頃 鶏卵紙 函館市中央図書館蔵(前期展示)

下) 田本研造 《(函館のパノラマ)》 明治22(1889)年頃 鶏卵紙4枚構成 東京都写真美術館蔵(前期展示)



■ 出品の所蔵館

函館市中央図書館、市立函館博物館、滝川市教育委員会郷土館、松前町郷土資料館、北海道立図書館、北海道開拓記念館、北海道立文書館

青森県

斗南藩記念観光村三沢市先人記念館は、明治5年に開設された開牧社(後の広沢牧場)を基盤としており、広沢安任(ひろさわやすとう)に関わる写真を多く収蔵している。内田九一、鈴木真一、江崎礼二、丸木利陽といった著名な写真師による肖像写真や、青森県の写真師である「陸奥青森写真師 柴田一奇」の作例も散見される。また、わずか85mm×54mmの画面に40名の肖像写真をコラージュした《有名高官》など、明治時代に生きた人の肌触りを感じられる作例も見出された。



制作者不詳
《第十五号バルリンデルニオル号青毛牡馬》
明治中期 鶏卵紙
斗南藩記念観光村三沢市先人記念館蔵
(後期展示)

■出品の所蔵館
斗南藩記念観光村三沢市先人記念館

秋田県

秋田県では、小坂鉱山に関わる写真や農業発展に尽力した森川源三郎関係の写真を調査した。小坂鉱山は江戸後期に開山し、明治中期に払い下げられて明治 30 年代に隆盛を極めた。小川一真は『小坂鉱山』（合名会社藤田組、明治 36 年）を制作しており、これに関わる多くの写真が小坂町立博物館郷土館に収蔵されている。秋田市総務部文書法制課では森川源三郎が九州へ農事奨励のために巡察していた証となる写真が収蔵されている。



小川一真 《分析室》 明治 36 (1903) 年
明治 36 (1903) 年頃 ゼラチン・シルバー・プリント
小坂町総合博物館郷土館寄託 (前期展示)

■出品の所蔵館
秋田市総務部文書法制課、
小坂町立総合博物館郷土館寄託

岩手県

岩手県は盛岡藩士・関政民による第十四代藩主・南部利剛の肖像写真（もりおか歴史文化館）をはじめとして、潤沢な初期写真を有している。藤沢町には同地出身のグアテマラで開業した屋須弘平関係資料が収蔵されている。また、斎藤實記念館、後藤新平記念館には明治 10～20 年代の肖像写真が多く収蔵されている。一関市立博物館では佐賀藩医で万延元年の遣米使節として渡米した川崎道民によるアンブロタイプを管理している。《喜代八 文次郎 登美》は、フォービズムの先駆者として名高い萬鉄五郎の青年期に水墨画を指導した菊池素香を捉えた写真である。箱書きには「明治 乙亥九月二日」とあり、撮影者について詳らかになっていないが「岩手里」の記述を含む印章から、明治 9 年に岩手県が誕生する直前、盛岡県時代末期の岩手で制作された作例である。



開遊亭 《菊池文次郎を囲む三人》 明治 8 (1875) 年
アンブロタイプ 萬鉄五郎記念美術館蔵 (通期展示)

■出品の所蔵館
一関市教育委員会、斎藤實記念館、後藤新平記念館、萬鉄五郎記念美術館、
もりおか歴史文化館、一関市博物館寄託

福島県

明治 21 年に起こった磐梯山の噴火は、小磐梯山の山頂部を吹き飛ばし、山体を崩壊させる大爆発であった。この未曾有の大災害は、多くの写真師、浮世絵師、帰朝画家などによって画面が制作された。本展では、錦絵《岩代国磐梯山噴火之図》や、山本芳翠の石版画のほか、岩田善平が制作したコロディオン湿板方式によるネガ原板を調査し、ウィリアム・キンムンド・バルトン、田中美代治らが制作した鶏卵紙の写真も展示する。他方、三春町歴史民俗資料館では乾板を使用した早取写真師として名を馳せた江崎礼二による明治 8 年のアンプロタイプを調査し、白河集古苑では棚倉藩最後の藩主である阿部政功を被写体とする丸木利陽や東京印刷局の写真を調査した。福島県富岡町教育委員会所蔵の同地開拓風景写真も出品予定である。



小林幾英 《岩代国磐梯山噴火之図》 明治 21 (1888) 年 多色刷り木版 磐梯山噴火記念館蔵 (後期展示)



江崎写真館 《影山正博》 明治 8 (1875) 年 アンプロタイプ 三春町歴史民俗資料館寄託 (右 2 点は蓋) (通期展示)



■出品の所蔵館

三春町歴史民俗資料館寄託、白河集古苑、磐梯山噴火記念館、福島県立博物館寄託、郡山市立美術館、会津若松市立会津図書館、富岡町教育委員会 (映像展示を予定)

宮城県

仙台文学館には、幼少期を仙台で過ごした冒険小説家・押川春浪関係資料として、明治 20 年代の写真資料が収蔵されている。ここには押川の肖像写真だけでなく、永井荷風等との集合写真や、有島武郎著『或る女』の早月葉子のモデルとなった佐々木信子の肖像写真 (江木松四郎撮影) もあり、文学者の交流が感じられる。白崎民治は、山形県出身の写真師で、酒田港で開業後、明治 21 年頃に仙台へ移ったと考えられている。《押川春浪像》は仙台開業直後の作例と考えることができる。

■出品の所蔵館

仙台文学館



白崎民治 《押川春浪》 明治 21 (1888) 年頃 鶏卵紙 仙台文学館蔵 (右は裏面) (前期展示)

山形県

山形県は東北地方で最初の写真館を開業した菊池新学の出身地である。このため、山形県立図書館、山形市郷土館 (旧済生館本館) などには多くの作例が所蔵されている。東北新道開発の記録写真や山形県下の近代建築記録写真は北海道開拓写真と並んで、日本における土木建築記録の先駆的存在である。他方、明治 27 年に起こった酒田地震 (庄内地震) を記録した写真群が本間美術館に収蔵されており、撮影者は不詳であるものの、明治期の天災記録写真として重要な作例である。



制作者不詳 《飛鳥神社矢大門崩壊之真図》
明治 27 (1894) 年 鶏卵紙
本間美術館蔵 (前期展示)

■出品の所蔵館

山形市郷土館 (旧済生館本館)、山形県立図書館、
致道博物館、天童市旧東村山郡役所資料館寄託、
本間美術館

新潟県

新潟県立万代島美術館には、モダニズムの写真家である堺時雄資料として、その父・金井彌一の関係資料が収蔵されている。金井の師である鈴木真一、横山松三郎、江崎礼二ら写真たちの肖像写真が含まれる点は興味深い。また、着彩された肖像写真が2点含まれており、どちらも油彩によって着彩された写真油絵と考えられる作例であった。他方、長岡市立中央図書館文書史料室互尊文庫には、《堀田タミ像》がある。明治 20 年代に制作されたアンブロタイプで制作者は不詳だが、株券の仲買人を営む女性の肖像という点で興味深い。また、三条市立歴史民俗産業資料館が収蔵するアンブロタイプの「松尾与十郎肖像」は、内側の装丁が真鍮製である。これは日本の様式ではなくアメリカを中心とするブックハウジングであったことを想像させる。不明点が多いものの丁髷帯刀姿である点も含めて興味深い作例である。

■出品の所蔵館

三条市立歴史民俗産業資料館、糸魚川市歴史民俗資料館、
十日町市博物館、新潟県立近代美術館・万代島美術館、
新潟県立歴史博物館、長岡市立中央図書館文書資料室



金井彌一 《籠手田知事令嬢》
明治 24-29 (1891-1896) 年頃
写真油絵 新潟県立近代美術館・
万代島美術館蔵 (後期展示)

北海道・東北初期写真調査において、記録あるいは伝達の観点から制作された写真が大変多かったことが印象的であった。これらは「報道写真」の双芽ともいえるべき作例であろう。被写体は大別すれば「近代化」と「天災」である。前者は北海道開拓や東北新道などであり、後者は磐梯山噴火や庄内地震などであると言える。東日本大震災から2年となる今、本展では後者を掘り下げるために、『中島待乳写真台帳』より宮内幸太郎撮影の「三陸津波写真」を展示する。明治時代の天災記録として使われた写真について、多角的に見つめ直す。



上) 宮内幸太郎 《明治三陸津波写真》『中島待乳写真台帳』より 鶏卵紙 明治 29 (1896) 年 一般財団法人 日本カメラ財団/石黒敬章氏蔵 (通期展示)
右) ライムント・フォン・スティルフリートカ 《(大沼と駒ヶ岳)》 明治初 (1868-1877) 年 鶏卵紙 日本大学芸術学部蔵 (後期展示)



関連イベント

- ① 特別パネルディスカッション 「明治期天災記録写真と写真技術」
写真から浮かび上がる明治の姿を、記録と技術の両面から再考し、新たな写真史の視点を考えます。
日時：4月6日(土) 18:30～20:00 定員：190名
出演：石黒敬章（ゆうもあくらぶ事務局長、日本写真芸術学会評議員）、
高橋則英（日本大学藝術学部写真学科教授）
- ② デジタルデータでプリントする鶏卵史ワークショップ
日時：4月20日（土）、21日（日） 各 10:00～17:00 ※詳細はホームページをご覧ください
- ③ 担当学芸員によるフロアレクチャー
本展会期中の第1・3金曜日 16:00 より、担当学芸員による作品解説を行います。
※本展覧会の半券（当日有効）をお持ちの上、会場入口にお集まりください。
- ④ ゴールデンウィーク特別フロアレクチャー
ゴールデンウィーク期間中は担当学芸員によるフロアレクチャー を連日開催します。
日時：4月28日(日)、29日(月・祝)、
5月3日(金・祝)、4日(土)、5日(日)、6日(月・振休) 各日 16:00～
※本展覧会の半券（当日有効）をお持ちの上、会場入口にお集まりください。

巡回展情報

本展は、下記の日程で巡回いたします。

北海道立函館美術館（北海道、5月18日～7月14日）、鶴岡アートフォーラム（山形県、7月20日～8月25日）、郡山市立美術館（福島県、11月2日～12月15日）

関連出版

本展の開催にあわせ、『夜明けまえ 知られざる日本写真開拓史 北海道・東北編 研究報告』を出版します。出品作品より一部の図版、学芸員・関係者の研究報告、北海道初期写真関連文献資料などを掲載しています。価格：850円（税込）※当館ミュージアムショップ（03-3280-3279）にて発売

開催概要

展覧会名：夜明けまえ 知られざる日本写真開拓史【北海道・東北編】

Dawn in Japanese Photography: Hokkaido and Tohoku

会 期：2013年3月5日（火）～2013年5月6日（月・祝）

会 場：東京都写真美術館 3階展示室

〒153-0062 東京都目黒区三田 1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内

ホームページ www.syabi.com 電話 03-3280-0099

開館時間：10:00～18:00（木・金は20:00まで）

休館日：毎週月曜日（但し4月29日、5月6日は開館、4月30日は臨時開館）

観覧料：一般 500(400)円／学生 400(320)円／中高生・65歳以上 250(200)円

※（ ）は20名以上団体料金 ※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその
介護者は無料 ※東京都写真美術館友の会会員は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

交通機関：JR 恵比寿駅東口より徒歩7分／東京メトロ日比谷線恵比寿駅より徒歩10分

※当館には専用の駐車場がありません。近隣の有料駐車場をご利用ください。

お問い合わせ

東京都写真美術館 事業企画課

Tel. 03-3280-0034／Fax. 03-3280-0033

展覧会担当 三井 圭司 k.mitsui@syabi.com

広報担当 久代 明子 a.kushiro@syabi.com 平澤 綾乃 a.hirasawa@syabi.com

前原 貴子 t.maehara@syabi.com